

メガクラスター対応時の偏見・差別対策と プライバシー保護の取り組みについて

立正大学淞南高等学校(島根県)

校長 北村 直樹

報告内容

1. はじめに
2. メガクラスターとロックダウン
3. 誹謗中傷に晒される学校と生徒
4. 風評被害による偏見・差別と誹謗中傷
5. 生徒の心のケアと支援
6. おわりに

1. はじめに <学校概要>

<学校の概要> 昭和36年創立の男女共学の私立高校で平成13年より立正大学の準付属高校
生徒数309名 男子279名 女子30名(寮生256名・通学生53名) 教職員数38名 計347名
寮施設は4か所7棟 サッカー部寮(2棟122名)、野球部寮(2棟85名)、女子寮(1棟22名)、一般男子寮(2棟27名)

<学校観>

- 従来より全国各地から入学者があり地元からは親元を離れ寮生活する生徒が多い学校として認識 (現在は70名の地元生徒が在籍)
- 平成21年度に野球部が夏の甲子園初出場ベスト8、翌平成22年度にサッカー部が全国高校サッカー選手権大会第3位、
続いて全国総体で3度の第3位となりスポーツ強豪校として定着
- 校風として徳育を重視し、登下校時にはよく挨拶を励行するなど礼儀正しい学校という評価もいただく



1. はじめに <新型コロナウイルス メガクラスター概要>

サッカー部寮生1名が8月5日に発熱し、6日に一旦落ち着いたが、7日に味覚障害の症状を訴え、8日にPCR検査を受け陽性判定。

その後松江保健所の指導により全教職員、全校生徒のPCR検査を実施。

その結果、88名(その時点で)の陽性を確認し国内最大のメガクラスターと認定。

11日0時に学校として記者会見を行ない、早朝より終日報道各社で大きく取り上げられる。

松江保健所、島根県・松江市の関係部署の支援を受け校内対策本部を設置し対応。

島根県内医療施設と関係部署の協力のもと学校と寮をロックダウンし、市中感染は防ぐことができる。

全員の健康回復の後、感染防止対策を徹底し9月1日より学校を再開。

9月10日に松江市長による収束宣言発表。

最終的に教職員生徒98名、関係者10名、計108名のメガクラスター
<無症状58名、入院者40名(軽症)>

2. メガクラスターとロックダウン <初動対応>

<これまで誰も体験したことのないメガクラスターは島根県でも未曾有の出来事>

「これは災害レベルです」と医療統括監から評される

生徒1名の「陽性」が確認され、国内最大のクラスターが確認されると同時に松江保健所・島根県・松江市の関係部署と緊急会議

<松江保健所・関係部署との協議>

サッカー寮を無症状陽性者の臨時療養施設
(緊急特別措置)

島根県の医療体制を逼迫させることを回避

近隣住民に与えた不安は、差別や偏見へと拡大

寮に救急車が何台も来る。報道関係者が集まる。
テレビや新聞に大きく取り上げられる。

これらの非日常の出来事が風評に繋がる

学校再開に向けての地元説明会で
「学校や行政から何の説明もなかった」と指摘される

対策

松江市より地区3000戸に説明を配布(3回)

校長を本部長とする対策本部を設置
(健康観察と外部対応)

教職員による生徒・保護者・外部対応

全員の経過観察(学校・寮・家庭での長期自粛生活)

教職員が保健所の協力のもと24時間体制で対応

学校と寮を立入禁止措置(ロックダウン)

「陽性」、「陰性」濃厚接触者、「陰性」でも濃厚接触者でもない
教職員家族、すべてに外出自粛を命じる

理由

- ①市中感染を防ぐため
- ②偏見・差別・誹謗中傷から守るため

2. メガクラスターとロックダウン <記者会見>

< 偏見・差別・誹謗中傷・人権侵害を想定した記者会見 >

私のPCR検査が「陰性」と確認された時点で、学校としてどのような対応をすべきかを十分検討する間もなく、説明責任を求められる形で記者会見が設定される

< 校長として意識したこと >

生徒の大切な日常を取り戻す
(安心・安全・安定)

感染症(病気)に罹った生徒や教職員の
健康回復を最優先にすること

保護者の不安にどう対処
すべきかを苦慮

生徒を預かる学校内で起きたことは
全て学校の責任であるということ

その後に来る社会的制裁としての
差別・偏見、誹謗中傷の嵐は未知のもの

はじめに、お願いでございますが、**未成年の生徒とそのご家族の人権尊重と安全を最優先に考えて、個人情報の保護にご理解とご配慮をお願いいたします。**(中略)
温かい励ましもいただく一方で**厳しいご意見や数多くのお叱りや処罰を求めるご意見**もいただいておりますが、今回の事は、**生徒の落ち度ではなく学校の感染症対策の不備に起因していること**であり、本当に申し訳なく重く受け止めております。サッカー部をはじめ生徒の皆さんは、お互いに責めることなく励ましあって、家族や応援してくださる皆様、周辺の皆様にご迷惑をかけするのではという大きな不安を抱えながら、治療に専念し、教職員も同様に不安を抱えながら対応を続けております。**誹謗中傷も大変心配しており、生徒やそのご家族、教職員とその家族、学校関係者への人権尊重と個人情報の保護に重ねてご理解とご配慮をお願い申し上げます。**

生徒や保護者、教職員やその家族に直接誹謗中傷が向けられるのを回避するため、**「生徒に落ち度はなく学校の感染症対策の不備に起因している」とし、批判は全て学校が受ける形を取らざるを得ないと判断**

3. 誹謗中傷に晒される学校と生徒 <誹謗中傷クレーム>

8月11日零時に記者会見を開き、その内容が8月11日の朝から新聞・TV・ネットニュースで報道されたのを契機に、学校に対して抗議や問い合わせ、誹謗中傷の電話が殺到

内容	8/9	8/10	8/11	8/12	8/13	8/14	8/15	8/16	8/17	8/18	8/19	8/20	8/21	8/22	8/23	8/24	8/25	8/26	8/27	8/28	8/31	計
クレーム高	2		6	2	3	1		1														15
クレーム中		2	15	1	4	2				1							3	1				29
クレーム低	2	4	28	1	8	1		1		1			1			3	4					54
激励	2	3	23	3	4	3	5	2	1			2			2	8	2	6	3	2		71
寄付			2					2			1		1						2	2		10
保護者	1		4		12	2	1	4	6	2	3	3	1	3	2	5	4	1	2		1	57
報道	7	32	30	41	25	12	9	5	5			2	4		10	8	5	2	6	3	1	207
その他	17	10	19	8	4	5	4	1	9	10	15	6	11	9	5	15	12	9	7	9	7	192
計	31	51	127	56	60	26	19	16	21	14	19	13	18	12	19	39	30	19	20	16	9	635

日本から出ていけ、お前たちは日本人じゃない。殺人者を100人も作って。教師が馬鹿だからこのような事態になる。落とし前をつけろ！(非通知・男性)

おつむが弱くスポーツだけの学校。私の家族は買い物も我慢している。しょうもない学校。馬鹿でも行ける。

クズのような学校は潰してくれ！画像の削除は何故か。誹謗中傷は良くないが、隠蔽したんだろう！(番号通知・女性)

どんな教育をしているんだ。こっちは死活問題。クラスターでました？アホかおどれは！自殺もんだ！(非通知・男性)

刑事告訴しに行く。1800万円×15年 賠償しろ！人殺し・バカ！(非通知・男性)

謝って済む問題ではない。傷害罪、殺人未遂、使えない奴ら、行動自粛しろ！頭つかえ、人災、私立やったらなお更だ！(非通知・男性)

松江から出ていけ！(非通知・男性)

何やってんだ、テレビで学校が悪いと言っているぞ、ドンドン拡散してバカ！(番号通知・男性)

3. 誹謗中傷に晒される学校と生徒 <ネット上のプライバシーの侵害>

発生と同時にプライバシー(個人情報)の保護と誹謗中傷防止の観点から広報ツールの全てを凍結
(ホームページのブログ、公式SNS)

すぐにネット上で生徒の写真が検索され続けサッカー部の犯人探しが始まる。特定し断罪しようとする動き(人権侵害の発生)
凍結を隠蔽行為と受け取られ、一部のメディアに異なった形で報道されたことで更に炎上する(説明した上での報道)

生徒の健康回復が最重要・最優先の初動の際に、

無関係な生徒の特定を避ける防衛行為が、
逆効果の誹謗中傷の対象になる矛盾

メディア対応、誹謗中傷対応などで連絡網が塞がり、最も大切な保健所からの生徒の健康に関する連絡に遅れが生じた

連絡手段が喪失されるほど集中的に行われた電話での抗議

多くのメディアの方にはご理解いただき取材時間を
ずらしていただくなどのご協力をいただいた

「日本から出て行け」、「人殺し」、「自殺もんだ」などの心無い偏見や差別、
誹謗中傷は、今後、感染者が出るたびに発生すると危惧し、

**コロナウイルスの拡大と共に
偏見・差別・誹謗中傷の拡大は比例すると実感**

学校は踏ん張って組織的に生徒や教職員、
その家族を守ることができるが、

**個人が偏見・差別に晒された場合、
自己防衛には限界があり不可能だと実感**

4. 風評被害による偏見・差別と誹謗中傷 <デマの蔓延と批判の矛先>

「感染症に罹患した人は、その地域に住めなくなり引っ越さざるを得なくなり、その後自死したらしい」という根も葉もない噂がまことしやかに流布され蔓延

罹患者は地域社会から抹殺されるという間違った思い込みや恐怖心が偏見・差別を生む

デマが口コミでどんどん膨み地域社会に蔓延(地方特有の現象か)

当事者だけではなく無関係な人たちにも影響を及ぼす二次災害的な側面

本校生徒は全員外出自粛を続けているにもかかわらず、近くのスーパーマーケットで「立正大湊南の生徒がアルバイトをしている」、「店の前で立正大湊南の生徒がたむろしている」というデマが流布

お店の売り上げが一日数百万落ちているので困っているという風評被害の苦情

学校のある地域に行かない、松江に行かない、島根に行かない、「松江に帰ってくるな」とエスカレート

「松江市内で開催予定行事が中止になった」、「(様々な)施設の利用が出来なくなった」、「病院に見舞いに行けなくなった」、「墓参りに行けなくなった」、これらは全て本校のクラスターの責任だ

理不尽と分かっているにもかかわらず、経験した人は深い心の傷を負うことになり、行き場のない怒りは、原因を作った本校に向けられた

4. 風評被害による偏見・差別と誹謗中傷 <偏見のエスカレート>

濃厚接触者ではない職員の家族の勤め先で「あの人がくるかもしれないので2週間休みます」と同僚が会社に申し出る(その職員の家族は濃厚接触者でもないが出勤を自粛)

寮を療養施設として健康観察と続けていた時、「窓が開いている。感染るから窓を閉めろ」と苦情

ずっと外出禁止としていた「陰性」生徒が外の空気を吸いに少し敷地内に出たら、すぐに学校に「何を考えている。外に出るな。ずっと見張っているからな」と抗議

① 疑心暗鬼になり歯止めが利かなくなる傾向

② 自分が周りから責められたくない

③ 罹患者は社会から抹殺されるというデマが蔓延

④ 人の感情が引き起こす風評は深刻

⑤ 犯人や悪者を作り出し攻撃

偏見のエスカレート

防御姿勢からの過剰反応

信じ込みなかなか払拭できない

科学的根拠とは無関係

不確実性の回避からくる心情

5. 生徒の心のケアと支援 <支援の広がりとネットの影響>

最初の「陽性」生徒確認から松江市長の収束宣言までの34日間を対策本部長として統括し、3つの期間に分類

第1期



クラスター発生から療養体制が整うまで

混乱の中での模索対応を続ける

第2期



健康観察を続け全員の健康回復まで

健康観察をしながら復旧計画を進める

第3期



健康回復から学校再開・収束宣言まで

支援に励まされ感染症対策の再構築

自粛期間が長引くと携帯でネットばかり見る傾向にあり、
特に第1期、第2期は、偏見や差別・誹謗中傷を目にする機会が増えていた

直接学校に来る偏見・差別・誹謗中傷・人権侵害は生徒から遠ざけることができたが、
特にネットニュースから生徒や保護者を防御できない

転機は元サッカー日本代表、本田圭佑さんの応援メッセージ
その後、青森山田サッカー部はじめ多くの応援メッセージが寄せられ始める

助けられたのもネットニュースや励ましや応援のSNS

5. 生徒の心のケアと支援 <全国からの応援メッセージと支援物資>

その後、保護者、卒業生を中心に地域の方や全国からお手紙やメールの励まし、支援物資や匿名のご寄付が続々と寄せられる



5. 生徒の心のケアと支援 <オンラインやネットを使ったケアの取り組み>

オンラインミーティングを行ない、心のケアに取り組む(島根県臨床心理士・公認心理師協会のサポート)
生徒や保護者に学校より詳細な現状説明と励ましのスクールメールを毎日配信
(1日2回配信、その中で励ましや支援の内容を紹介)

偏見・差別、誹謗中傷・人権侵害の対極にある支援・励まし、応援は強く心に響く
自粛が長引く中で次のようなメッセージを全校生徒に発信

世の中には、誰かを攻撃する人がいて、今度はその攻撃していた人を攻撃する人が出てくる。心無い言動は本当に悲しいことだと思います。本校の生徒の皆さんは、誰かを責め批判するよりも、支えてくれる家族や支援してくれる心ある人に感謝を深める人になってもらいたい。大切な日常を取り戻したら、これからどのように恩返し的人生を送れるか、みんなと考えていきたい。『困っている人は助け、病を患っている人はいわたり、快復を祈る』という人として当たり前のことの出来る人になってもらいたいと思います。

多くの支援をして下さった人に感謝をして、しっかり休養し再開に備えてください。

誰も責めてはいけません。



5. 生徒の心のケアと支援 <誹謗中傷への声明>

文部科学大臣や島根県知事、松江市長が「感染症への誤解に基づく非難は許されない」と声明を出し続けてくださり、私たちを守っていただきました。

支援や励ましの声が偏見・差別、誹謗中傷・人権侵害の抑止力になると現場で実感

生徒の心のケアを続けていく中で分かったこと

①これほど大きなインパクトを受けた子供達の心のケアは、一朝一夕にできるものではない

②生徒や保護者に寄り添う姿勢が最も必要なこと

③大人がしっかりと向き合って、時間をかけて、次にゆっくりと進ませることが私たちの役目

感染防止対策をしっかりとしながら学校を再開するということは、
生徒の現実の世界も心の世界も安心させ安定させること

6. おわりに < 偏見・差別・誹謗中傷・人権侵害への対策について >

いまだに島根県の市外地では、「松江から人が来てもらっては困る」、「松江に行ってはいけない(自分の町から出るな)」、「うちの家族が松江の人に会ったら何を言われるかわからない」、「(養護施設勤務のため)県外に出たら2週間自宅待機し出勤してはいけない」という声がある

「自分がこの小さな町で感染者になりたくない」、「万が一になってしまったら村八分になる」という恐怖心
長期間に刷り込まれた意識はなかなか取り払うことができない

この意識を取り除かない限り、偏見・差別、誹謗中傷・人権侵害はなくならないと感じる

家庭、学校・職場、地域、県、国レベルでの啓蒙と
支援、励ましの意識を広げる必要性

人権侵害への抑止力

偏見・差別、誹謗中傷、
人権侵害は報道内容に
左右される場合がある

若い世代はネット・SNSの影響
年配の世代は新聞・テレビの影響に分かれる

平成21年(2009)夏の甲子園に初出場し新型インフルエンザに
感染しながらベスト8(批判的ではなく美談に)

プライバシーの保護と報道の自由の検証
報道による影響評価の正確な分析

人権侵害への配慮



6. おわりに <これから>

多くの方々の支援により市中感染せず全員健康を回復し、短期間に収束することができた。
学校が再開し、学習の遅れも最小限度で済み本当に感謝している。

日本最大のメガクラスターを体験した学校として、立正大淞南は出来る限りの感染予防対策を講じながら研鑽を積み、寮生活、学校生活に取り組んでいく。

目標に向かって明るく前進する姿を見せていくことが、偏見・差別、誹謗中傷・人権侵害に勇気を持って立ち向かう術であり、教職員全校生徒と共に出来る限りの努力をしていきたい。

今回の体験を通して得た知見を、他の学校にも情報提供していきたい。